

## 台風第5号の接近に伴う農作物等の技術対策情報

### I 台風第5号の通過に関する情報について

令和6年8月9日12時45分の気象庁発表情報\*によると、日本の東にある台風第5号は、来週12日から13日かけてに本県に接近する見込みです。

台風が接近した場合には、強風及び大雨による農作物等への影響が懸念されますので、注意願います。

※気象庁ホームページ 台風情報 (以下の防災情報ページ → 気象防災の項目から台風情報へ)  
<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html>

### II 農作物等の技術対策

#### 1 共通事項

- (1) 人命第一の観点から、ほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が治まるまでは行わない。また、大雨等が治まった後の見回りにおいても、増水した水路やその他の危険な場所には近づかず、足下等、ほ場周辺の安全に十分注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行う。
- (2) 強風に備え、資材等の飛散による被害防止に努める。
- (3) 大雨に備え、排水路の整備や排水機場の稼働体制を整える。
- (4) 浸冠水のおそれがあるほ場では、明きよの施工等を行うほか、排水が速やかに行われるようほ場や施設周辺の排水路等の点検や補修を行い、排水口や側溝のゴミや泥を除去する。
- (5) ほ場や施設が浸冠水した場合は、排水ポンプや溝きり等により、できる限り速やかに排水を行う。
- (6) 浸水、冠水の被害を受けた農作業機械や設備等は、販売店等に依頼して動作確認を行う。  
(水抜きができていない状態でエンジンを始動したり、電源を入れたりすると、重大な故障や事故に繋がるので注意する。)
- (7) 潮風害が予想される地域においては、除塩のための水源を確保しておくとともに、潮風害を受けた場合には、できる限り速やかに散水により除塩を行う。また、肥料が流亡した場合は土壌分析を実施し、適正量を施用する。

#### 2 水 稲

- (1) この時期の冠水は、屑米が増加して登熟歩合が低下し減収するので(次ページ表参照)、冠水した場合は、早期排水に努める。特に出穂後10~15日頃の影響が大きい。
- (2) 雨の伴わない強風や台風通過後の吹き返し(フェーン現象)の場合には、稲体からの蒸散量が増大し、穂・粃への影響や葉先枯れの多発が予想される。これら被害を最小限にとどめるため、浸冠水のおそれがない場合は、速やかにかん水し、水を切らさないようにする。
- (3) 白葉枯病の常発地や強風による被害(葉の損傷)を受けた水田、浸冠水した水田では、白葉枯病が発生しやすくなるので、発生動向に注意する。

- (4) 冠水した場合はいもち病抵抗力が弱くなるので、いもち病の発生状況に注意し、早期防除に努める。

表 水稻の生育ステージ別冠水日数と減収割合

単位：％

生育ステージ	冠水日数				備考
	1日	3日	5日	7日	
出穂期	20	65	80	100	二段穂を生じても、玄米は期待できない。
出穂後30日	10	40	50	—	

※農業災害ハンドブックより(品種：農林17号)

### 3 大豆

- (1) 大雨に備え、排水が速やかに行われるよう排水溝や明きよ、暗きよ等の点検整備を行う。
- (2) 浸冠水した場合は、早期の排水に努める。
- (3) 台風通過後には、用水路や排水路にゴミで水の流れが悪くなっている所があるので、巡回を徹底し排水改善に努める。

#### 4. 1 園芸作物全般

- (1) 台風が接近する前に湿害や冠水害を受けやすい畑地は事前に排水溝を点検整備し、場合によっては排水ポンプを準備しておく。
- (2) 温室、育苗・集荷施設等については、強風に備え、取り付け金具の緊張、押さえひもによる固定、妻面の補強等の防風対策を行うとともに、木片など飛来物による損傷を防止するため、施設周辺の清掃、防風ネットの展張を行う。
- (3) 大型施設は、天窓や換気用のハウスサイドが強風にあおられて破損しないよう点検整備し、場合によっては押さえマイカー線で固定する。
- (4) 浸水した場合は、速やかに排水を図る。冠水した場合は、茎葉に付着した泥土が乾かないうちに動噴等を利用して、清水で洗い流し、予防のため速やかに登録のある殺菌剤を散布する。
- (5) 台風通過後、高温となることが予想されるので、施設栽培では、吹き返しの風に注意して換気を行う。露地栽培では、ほ場条件を確認し速やかに薬剤や液肥の散布を行う。
- (6) 回復が見込まれない場合は、速やかに播き直しや他品目等に切り替える。

#### 4. 2 露地野菜

- (1) 夏秋きゅうり、トマト、なすなどの支柱を補強しておく。
- (2) 風で茎葉が被害を受けた場合も、完全に折損したもの以外は回復するものもあるので、応急的に殺菌剤を散布する。
- (3) 果菜類等が倒伏した場合は、直ちに誘引や支柱の立て直しを行う。弱っている株の負担を軽くするため、大果にしないで早めに収穫するか、摘果する。

#### 4. 3 露地花き

- (1) きくやその他切り花類は、支柱やフラワーネットを補強する。
- (2) 倒伏した場合は、短時間で茎が曲がり商品価値が無くなるので、直ちに支柱を立て直す。
- (3) 風で茎葉が被害を受けた場合など、各種病害が発生しやすいので、応急的に殺菌剤を散布する。

#### 4. 4 施設野菜・花き

- (1) 周囲の排水路、明きよを点検整備し、施設内への雨水の侵入を防止する。
- (2) 本年度は現在まで、高温強日射が継続しているため外部遮光資材を展張している施設が多いので台風通過の前に事前に取り外すか、強風にあおられないようにマイカー線等で補強する。
- (3) 被覆フィルムが弛緩していると、強風にあおられ被害が生じやすいので、取り付け金具の緊張、押さえひもの固定（マイカー線で補強）、両妻面の補強、防風ネットの被覆等を再点検・整備する。筋かい、補強支柱等の臨時的補強材を準備し、強風警報発令時など風が強くなったら、直に取り付ける。
- (4) 大型施設は、天窗や換気用のハウスサイドが強風にあおられて破損しないよう点検整備し、場合によっては押さえマイカー線等で固定する。
- (5) 施設に換気扇を設置している場合、強風の時間帯は施設を密閉し、換気扇を回し施設内を負圧とし強風にあおられないようにする。
- (6) ハウスを長時間、完全に密閉状態にすると病害の発生を招くので、風の状態（強さ、向き）に注意して風下側など少量でも換気するように努め、完全密閉は風が特に強い時間帯など極力短時間にする。さらに、台風通過後は、吹き返しに注意して換気を図り、できるだけ速やかに殺菌剤を散布し、病害の発生を予防する。
- (7) 台風通過後は施設各部を点検し、被覆材等破損したものは直ちに補修する。また、環境制御装置や補光関連設備等も、速やかに作動状況を点検して修理する。
- (8) 浸水した場合は、早期の排水に努める。また、地中内の給排水する管についても詰まり等が無いかを確認してから使用する。電気設備については自己判断せず、業者へ依頼する。
- (9) 台風通過後は、高温で日射が強い天気となることが多い。このような場合、作物が急激に萎れて、葉焼け等の障害を起こすことがあるので、必要に応じて遮光や換気により気温や葉温の低下を図る。

#### 4. 5 果 樹

- (1) 防風施設が設置されている園地では、早急に防風網を張る。
- (2) 収穫可能な果実はできる限り収穫しておく。その際、農薬使用基準（農薬散布から収穫までの経過日数）に留意する。
- (2) りんごの普通樹は、主幹、主枝、亜主枝に支柱をし、倒伏や枝裂けを防ぐ。
- (3) わい性台樹や若木は、トレリス又は支柱にしっかり固定し、倒伏、樹体の折損、落果を防止する。
- (4) ナシやブドウの棚を点検し、不具合箇所は修繕する。新梢や側枝の誘引状況も確認し、不足している場合には、早急に誘引する。
- (5) 排水不良園では、明きよの掘削を行い、園地から排水対策を行う。
- (6) 浸水等により、枝葉に付着したごみや泥は、清水をかけるなどして取り除き、病害の伝染源になるのを防ぐ。
- (7) 枝葉や果実の損傷が著しい場合には、殺菌剤を散布する。
- (8) 有袋栽培では袋が飛ばされたり破損した場合は、殺菌剤散布後、なるべく早く、再被袋する。
- (9) 土砂の堆積が多い場合には、幹を中心に直径2 m程度取り除き、土が乾いたら耕耘する。
- (10) 倒木があった場合には根が乾かないうちに速やかに起こし、支柱で支える。枝が裂けた場合には裂開部を縄やかすがいなどで接着する。枝葉の損傷が著しい場合には、切り落とし、塗布材を塗る。
- (11) 施設果樹については、被覆材等破損したものは直ちに補修し、施設内の装置等もよく点検して修理する。また、浸水した場合は、早急に排水を図る。

## 5 家畜

- (1) 畜産施設については、損傷、倒壊等为了避免のため、必要に応じて補修・補強や施設周辺の排水対策を行う。
- (2) 天候回復後、各施設の破損状況を確認し、必要に応じて補修、洗浄、消毒を行うとともに、飲水に適した水の確保や家畜の健康観察を徹底し、伝染性疾病の発生予防に努める。

## 6 飼料作物

- (1) 雨水が停滞しやすい場合は、排水溝を整備して排水に努める。
- (2) 浸冠水した場合は、早期の排水に努める。
- (3) 浸水した飼料用トウモロコシを刈り取る際は、高い位置で刈り取り、土の混入をできるだけ防ぐ。また、必要に応じてサイレージの品質向上を図るため、乳酸菌等の添加により発酵を促す。
- (4) 倒伏や土砂等の汚れがついた飼料イネは品質が低下するので、土砂の混入を避けるため高刈りとし、必要に応じて乳酸菌等の添加により発酵を促す。
- (5) 草地や牛舎周辺に積んでいるラップサイロのフィルムが破損した場合は、早急に補修専用の粘着テープで補修する。
- (6) フィルム破損や冠水等で飼料が変質した場合は、廃棄する。